

## 新型インフルエンザ対策について

### 1. 行動計画や各種ガイドラインの見直しについて

今回の新型インフルエンザは弱毒性であったが、第二波はスペインかぜのように、強毒性にウイルスが変化する懸念がある。

現行の行動計画や各種ガイドラインを今回の経験を基に、強毒性化した場合にも対応できるよう見直し、修正を早急に行っていただきたい。

### 2. 情報収集・提供について

新型インフルエンザ対策を策定するためには、感染動向や患者発生状況、症例等の情報が必要であるが、国から提供される情報は少なく、本県では独自に情報収集や分析、発生予測を行っている状況にある。

今後は、国において、全国からの感染動向や発生状況等のデータを収集・分析して、発生予測ができるシステムを整備され、各都道府県に情報提供をしていただきたい。

### 3. ワクチンの生産体制の整備について

ワクチン接種事業においては、ワクチンの供給量が少なく、県民の不安は大きく、県、市町村、医療機関とも対応に苦慮している。さらに、接種開始後、接種回数について国の方針が変わるなど、接種現場は混乱をきたしている。

ワクチンについては、安全性の面から考えても、国内で必要な数量を適切な時期に供給できる生産体制を整備し、今年の実験を基に時間的に余裕をもって接種できるよう体制を整えていただきたい。

提案先 厚生労働省